

わっしょい

題字 栃尾 マツ子 様

社会福祉法人 上神谷福祉会
特別養護老人ホーム榎塚荘
TEL:072-291-0920

関連施設
ケアハウス逆瀬川
グループホーム高倉
赤坂台デイサービスセンター

認知症「なる」と出ていかなくちやいけないうって本当?!

街で見かけた高齢者の方が、一人でどこことなく不安そうにしている、歩いている姿に違和感を感じて、気になった事があるかもしれません。

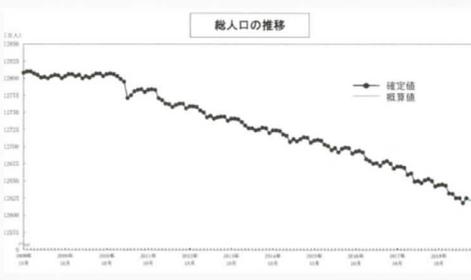
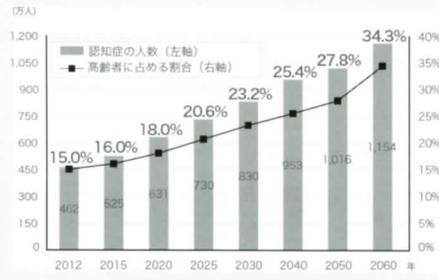
現在、日本の大きな社会問題になっているのが認知症有症者の増加です。その増加に伴い、高齢者が関与する事故や行方不明者が急増しています。

認知症を発症すると、今まで当たり前でできていた日常生活が困難になってきます。例えばごみの日を忘れてしまい、回収日でない日にごみを出す日が続いたり、回収されず異臭を放ってしまったり、そういった事が積み重なり、ご近所ですらとまどった迷惑扱いを受けてしまったり。そうなると思わなかった我が家はもちろん、地域でも暮らしにくくなってきます。

認知症になってもその人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた良い環境で、自分らしく暮らし続けていきたいですね。そのためには、適切な声掛けや地域での見守り、また必要に応じた介護サービスの利用をする事で、実現することが多くあります。今回はその制度や介護サービスをご紹介します。

まずは日本の人口推移と認知症高齢者数を見ていきましょう。日本の総人口は、平成17年に戦後初めて減少したのち、3年後の平成20年にピークとなり、その後継続して減少しています。一方、65歳以上の高齢者人口は、昭和25年以降一貫して増加しています。総人口に占める高齢者人口の割合は、27.7%となり、過去最高となりました。

65歳以上の高齢者数と認知症有病率の将来推計についてみると、平成24年(2012年)は認知症高齢者数が462万人と65歳以上の高齢者の約7人に1人であったが、令和7年(2025年)には約5人に1人になるとの推計もあります。



参照：認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

参照：総務省統計局HP

住み慣れた家やまちで暮らして行くにはどうすればいいか...

国が進める具体的な認知症施策があります。「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会」を目指すべき社会とし、次の5つを掲げています。

- ①普及啓発・本人発信支援
 - ・認知症に関する理解の促進
 - ・（認知症サポーター養成）の推進・子供への理解促進
 - ・相談先の周知（地域包括支援センターなど）
- ②予防
 - ・認知症予防に資する可能性のある活動の推進
 - ・予防に関するエビデンスの収集の推進
- ③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
 - ・早期発見・早期対応、医療体制の整備
 - ・医療・介護の手法の普及・開発
 - ・介護サービス基盤整備・介護人材確保
 - ・認知症の人の介護者の負担軽減の推進
- ④バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援
 - ・バリアフリーのまちづくりの推進
 - ・移動手段の確保の推進
 - ・地域支援体制の強化
 - ・商品・サービス開発の推進
 - ・成年後見制度の利用促進
- ⑤研究開発・産業促進・国際展開
 - ・認知症の予防法やケアに関する技術・サービス・機器等の検証、評価指標の確立
 - ・研究開発の成果の産業化とともに、「アジア健康構想」の枠組も活用し、介護サービス等の国際展開を促進

私たち上神谷福祉会では、右記のうち①の「地域包括支援センター」や③にあたる認知症対応型のデイサービス「逆瀬川デイサービスセンター」の運営・サービスを提供しています。認知症になっても「その人らしさ」を大切にして馴染みのある環境で暮らしていくには、本人の支援はもちろん、介護者であるご家族への支援（レスパイトケア）も重要となります。逆瀬川デイサービスセンターは認知症対応型デイサービス（地域密着型）で、レスパイトケアにも注力しています。逆瀬川デイサービスセンターだからこそできる事をご紹介します。

私達だからできること 『逆瀬川デイサービスセンター』

Aさんとの出会い

ご主人と二人暮らしのAさん。若いころは栄養士の学校で教鞭をとられ、プライベートでは二人のお子さんに恵まれ、子育てと仕事を両立してこられました。60代で認知症を発症してからは、ご主人が約10年、一人で介護してこられました。月日が経つとともにAさんの認知症は進行し、ご主人の事がわからない日もありました。自宅での入浴や排泄も難しくなり、ひと時も目が離せず、疲れ果てたご主人は介護サービスを使う事になりました。

デイサービス利用開始！そして、上手いかない日々

ご主人の負担を少しでも軽くする為に、デイサービスの利用が始まりました。



最初は一般的なデイサービスを利用しようとしたのですが、施設の中に入ることすらできず、ようやく入っても「帰る！帰りませう！」と出口を探して走り回り、職員に怒りをぶつけ、とても利用できる状態ではなかったそうです。それからいくつかのデイサービスを試されましたが、落ち着くことなく、認知症対応型である逆瀬川デイサービスを試してみたいというご依頼を受けました。

初めて体験の日にお会いしたAさんは、とにかく不機嫌で、ほとんどの時間を職員への罵倒と疑いの目で責めながら過ごされました。利用が始まって、迎えに行つて家を出たものの、車に乗っては頂けず、家の周りを歩き続けるAさんの後を職員がついて歩くという事が多々ありました。炎天下に歩き疲れて道の脇に座り込んだAさんの脱水が心配になる日もありました。デイ利用中も浴室、トイレ、食堂、帰りの車など、とにかく誘導することが難しく、不安と警戒心の塊で出口を探して外へ飛び出したこともありました。その都度職員はとことん一緒にフロアや歩道歩き、会話の中で笑顔を見つければ「今かな？」というタイミングをつかめるようになるには、半年以上かかりました。

キラキラと変わっていくAさん



週に3回デイサービスを利用するようになったAさんにとって、少しでも楽しく有意義な時間になればと願い、職員たちは寄り添うようになり、ご主人にお話を聞き、Aさんの好きなものを探っていくことができました。Aさんは人前に立つことが好きで明るく社交的料理はもちろん、歌や社交ダンスも得意だと知りました。レクリエーションの時間には、歌うだけでなく、職員に社交ダンスを教えて頂けるようお願いしてみました。ステップを踏むAさんの笑顔が弾ける瞬間でした。

ご自宅ではほとんど台所に立つことがなくなりましたが、クッキングの時間に職員がお誘いすると、しっかりと包丁を握って野菜を刻んだり、フライ返しでパンケーキをひっくり返したり、それはもう見事な手つきでした。後日、ご主人よりお手紙を頂き「長らく料理なんかしていません。立って、なんと3品もおかずを作ったんです。驚きました。」という知らせに、私たちも驚き、スタンプみんなで喜びをかみしめました。

一筋縄ではいかない

Aさんとの関わりの中で特に難しかった事は入浴でした。浴室だという事が理解できなくなっていたAさんにとって、服を脱ぐ事の意味が分からず、それも人前になると相当な抵抗をされ、怒らせてしまい、入れない事もしばしばありました。その中で私たちはAさんが朝の到着時、とても穏やかに落ち着いて、良い表情をしておられるという気持ちのツボに気が付き、朝1番の誰もいない浴室に1対1で静かにゆっくり入って頂く方法を試してみました。担当する職員は緊張しながらもAさんの表情に注意し、楽しく会話をしながらゆっくり進めていきました。フロアでは別の職員が、浴室からのSOSにいつでも対応できるように待機しました。浴室から頬をピンク色に染めて「気持ちよかったですよ」と笑顔で戻って来られたAさんを見た時、みんながホッと安堵したのを覚えています。

逆瀬川デイサービスセンターの願い

現在、Aさんは週3回のデイサービスと月2回のショートステイ(お泊り)を利用しながら、ご主人と在宅生活を続けておられます。年月がたちAさんの症状にも変化があり、その都度私たちがAさんにとって最適な方法を考えます。「認知症になっても住み慣れた場所での暮らしを暮らすお手伝いをする」これが逆瀬川デイサービスの介護理念です。Aさんがご主人との生活を続けて行かれる限り私達はそのお手伝いをさせて頂き、Aさんとそのご家族に笑顔多く暮らして頂きたいと願っています。

逆瀬川デイサービスセンターの スタッフにいくつか質問をしてみました。

利用者様と接するとき心がけている事は？

・その方を知る事。その際には笑顔と穏やかな口調で話しかけるようにしています。『認知症の方』ではなく、人生の先輩として常に敬意を表現できるような言葉遣いを心がけています。
・話してくださることを否定しない。同調する。

利用者様のご家族と接するとき心がけている事は？

・少しでも晴れ晴れとして、心を大きく持つてもらえるように明るく接することを心がけています。
・デイサービスでのご様子が分かるように、笑顔になった瞬間や活動内容などをお伝えしています。

利用者様にとって必要なケアとは？

・心が動くこと。その方の世界を感じ気持ちを理解しながら工夫や感動を取り入れていくケアが必要だと考えています。
・不安に寄り添うこと。寄り添い続ける中で、少しでも笑顔と自信を取り戻して頂くことです。

逆瀬川デイサービスだからできる事って何ですか？

・根気強く寄り添うことです。その中にも明るさや楽しさがあり、



その方の「できる」を引き出す力（エンパワーメント）だと思えます。

・馴染みの中で気持ちよく過ごして頂けることと、認知症に大切な感動やちょっとした緊張を感じて頂くことができます。

逆瀬川デイサービスでの介護理念を教えてください。

・利用者様の持つ不安や混乱を払拭し、ともに心から笑顔でお過ごし頂ける介護。
・認知症になっても住み慣れた場所、その方らしく暮らすお手伝いをする。
・孤独を感じさせることのない安心な時間を作る。

スタッフの想いが重なり形となっているのが逆瀬川デイサービスセンターです。

ご利用いただくためには、いくつかの要項があります。どうぞお気軽にお問い合わせ下さいませ。

逆瀬川デイサービスセンターの存在意義

認知症は、現在の医療では治すことができない病気です。適切な医療ケアと介護ケアを受ける事で認知症の進行を遅らせる事は出来ます。

認知症が進行し症状が重度化しても、適切な支援（医療と介護）を受け、適切な生活環境で暮らす事で住み慣れた環境で暮らす事が出来ます。本人と家族の思いを支えようとする在宅ケアの一つが逆瀬川デイサービスセンターです。

逆に言うと、適切でないケアを受ける事で、症状が進行してしまふことがあります。

当センターが属する認知症対応型デイサービス（地域密着型）は、少人数制に必要な職員数も一般的なデイサービスよりも多く、認知症利用者により寄り添い、その変化にすぐさま対応することが出来るような仕組みになっています。

特筆すべきは、認知症の専門的な知識を持った職員で構成され、介護職としてのキャリアも長い職員が揃っていることです。

日常生活や会話もままならない認知症利用者には、専門的知識と思いを持った職員がケアすることで、スムーズにサービスを受けて頂くことができます。お一人お一人、その症状も違います。その方々に合った声掛けで、やる気を引き出していきます。また、認知症進行予防にも注力しており、多くのプログラムを実施しています。もちろん、その方のペースに合わせる事を第一に。



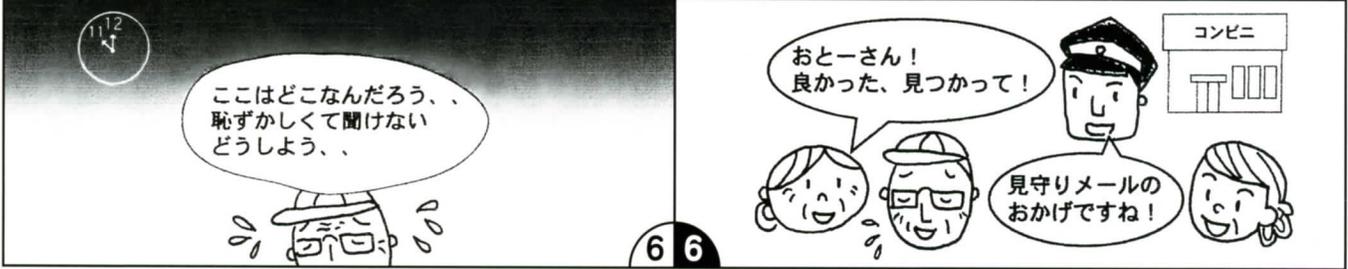
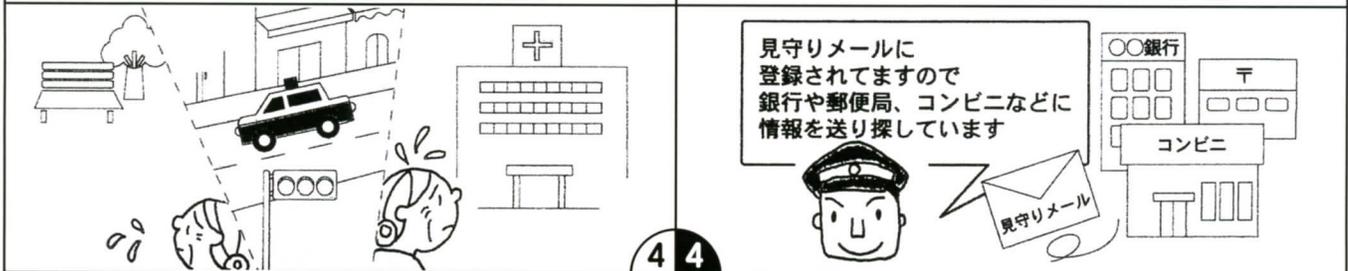
榎塚荘ケアプランセンター 知っ得情報

私の家はまだ大丈夫。しかしその日は突然やってくる・・・



見守りメールに **登録していない時**

見守りメールに **登録している時**



見守りネットワークへの登録はお済みですか?

徘徊により行方不明になった人が事故に遭われたりすることを防ぐために、地域の協力を得て早期に発見する取り組みです。どうしても警察の力だけでは探すのに時間がかかってしまう場合があります。そこで協力者として、基幹型包括支援センター、地域包括支援センターや銀行、郵便局、コンビニやスーパーなどの商業施設、病院、介護福祉施設などさまざまな施設と連携をとり、早期発見に努めています。

ただし、このネットワークを利用するには事前に登録が必要になります。

登録方法

申請書は、地域包括ケア推進課、区役所地域福祉課、基幹型包括支援センター、地域包括支援センターにあり、堺市ホームページからダウンロードもできます。記入した申請書を地域包括ケア推進課の窓口まで提出します。(郵送可)

登録申請は、本人、ご家族、成年後見人、またはケアマネージャー等でも可能です。「うちはまだ大丈夫」と思わずに、出来るだけ早い段階での登録をお勧めします。

詳しい情報は、お近くの包括支援センターや堺市健康福祉局 長寿社会部 地域推進ケア推進課にお問い合わせ下さい。